

農山村社会の維持・発展に向けた支援について

【担当省庁】農林水産省、総務省

京都府では、農山村社会の地域拠点の再構築と新たなコミュニティの創出や、農山村への移住定住を促進するため、「里の仕事人」（府職員）を地域に派遣するなど、集落連携による地域再生活動を支援する「共に育む『命の里』事業」、さらに、地域資源を活用した「一村一業」活動を支援する「明日の『京都村』づくり事業」に取り組んでおり、これらの推進に当たり、次のとおり要望いたします。

1 地方自治体の裁量が可能な支援措置

- 農山村の特色ある地域づくりには、府県や市町村が地域と一体となって地域の話し合いや連携組織づくり、地域力再生に向けた実践活動に取り組むことが不可欠であり、京都府が推進している「共に育む『命の里』事業」や「明日の『京都村』づくり事業」をさらに加速し、地域の実情を反映した取組を効果的・戦略的に展開するため、都道府県の裁量で予算配分できる支援制度としていただきたい。

2 外部の多様な力の活用による支援

- 京都府では、過疎集落等の持続的発展のために、地域住民と連携した、大学生による新たな発想を活かした創作・交流活動や、NPOによる都市とのマッチングによる新たなビジネスの創出活動を支援しており、「過疎集落等自立再生対策事業」の活用により、これらの動きが加速できるよう、事業を継続していただきたい。

<農林水産省の概算要求>

◎都市農村共生・対流総合対策交付金 37億円

子どもの農山漁村宿泊体験など都市と農山漁村の共生・対流を進める取組や人材の活用・育成、農産物加工・販売施設の整備等を支援

◎「農」のある暮らしづくり交付金 10億円

都市において、市民農園等の整備、新鮮な地元産農産物の提供、防災農地の保全など「農」のある暮らしづくりを支援

<総務省の概算要求>

◎過疎集落等自立再生対策事業 5億円

過疎集落等を対象に、地域資源や地場産業を積極的に活用して地域経済の活性化を図るとともに、日用品の買物支援といった日常生活機能の確保などの課題への総合的な取組を支援

京都府の現状・課題等

◆ 現 状

- 急速な過疎化・高齢化で地域の担い手や人材が不足
- 人や集落の絆が弱まり、産業の衰退・雇用就業機会の減少・農林地等の荒廃

◆ 課 題

- 地域再生や「一村一業」の農村ビジネスの推進
- 大学生やNPO等、外部の知恵や力の活用
- 農村を支える移住者の増加

◆ 京都府の取組

- 共に育む「命の里」事業（平成21年度創設）
 - ・過疎化・高齢化が進行する集落の連携による地域再生活動
 - ・平成24年度までに38地区で展開
 - ・京都府職員を「里の仕事人」としてを14人配置し伴走支援



里の仕事人（府職員）・里の仕掛人（民間人材）

【主な成果】



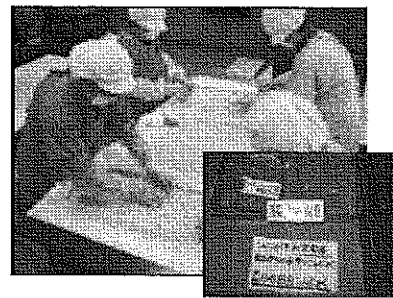
都市住民とともに開発した
栃の実おかし・あられの販売
[綾部市水源の里地区(古屋集落)]

H24 豊かなわが国全国政策事業 農林水産大臣賞受賞



空き家を整備し
ゲストハウスに活用

[舞鶴市岡田中地区]

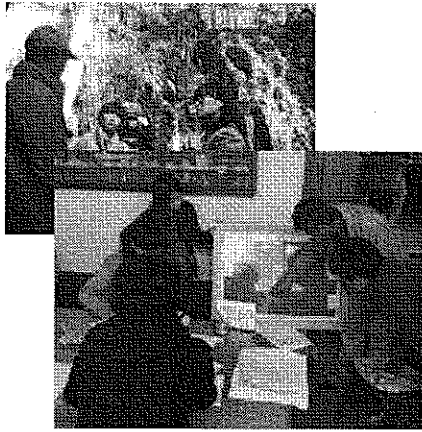


ゴボウ・コンニャクの
錦市場(京橋)への販路開拓・拡大

[宮津市日ヶ谷地区]

共に育む「命の里」事業 実施状況		
	事業費(千円)	地区数
平成21年度	593,000	10
平成22年度	628,500	19
平成23年度	416,770	25
平成24年度	272,770	38

【外部の知恵や力を活用した取組】



大学生が提案した里山再生プロジェクト
(京阪神 11 大学の学生による創作・交流活動)
[与謝野町滝・金屋地区]



企業の OFF-JT やツアーなどの新商品開発
(NPO 法人が都市と農山村をマッチング)
[京丹後市大宮町五十河地区など]

○明日の「京都村」づくり事業 (平成 24 年度創設)

- ・住民自らが描く村の将来像の実現に向け、地域資源をいかした村オリジナルの農村ビジネスや特色ある村づくりを展開

いっそんいちぎょう
「一村一業」活動のイメージ

6次産業村

GNH満足村

民宿村

明日の「京都村」づくり事業(平成24年度)

地区名	全体事業費 (千円)	京都村名	実施内容
旭地区(亀岡市)	20,000	なごみの里あさひ ～6次産業村～	農産物直売所を核とした販売・加工施設の整備
深草地区(京都市)	12,000	深草郷～生育村～	食育体験農園の整備
温江地区(与謝野町)	20,000	温江「農業元気村」	農産物の直売や加工品の製造・販売等

【京都府の担当部局】

農林水産部 農村振興課 075-414-4906